

# 特 許 協 力 条 約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）

〔P C T 36 条及び P C T 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PCT01-05010	今後の手続きについては、様式 P C T / I P E A / 4 1 6 を参照すること。	
国際出願番号 P C T / J P 2 0 0 5 / 0 0 5 0 5 0	国際出願日 (日. 月. 年) 1 5 . 0 3 . 2 0 0 5	優先日 (日. 月. 年) 2 9 . 0 3 . 2 0 0 4
国際特許分類 (I P C) Int.Cl. <i>G06T7/00</i> (2006. 01), <i>G06T1/00</i> (2006. 01), <i>H04N7/18</i> (2006. 01), <i>B60R1/00</i> (2006. 01)		
出願人 (氏名又は名称) パイオニア株式会社		

1. この報告書は、P C T 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (P C T 36 条) の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で 4 ページである。 <input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (P C T 規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照) <input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙 b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。 <input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎 <input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権 <input checked="" type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 <input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 P C T 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備 <input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 0 2 . 1 1 . 2 0 0 5	国際予備審査報告を作成した日 0 2 . 0 6 . 2 0 0 6	
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 佐藤 実	5 H 3 2 4 7
電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 3 1		

様式 P C T / I P E A / 4 0 9 (表紙) (2 0 0 5 年 4 月)

## 第 I 欄 報告の基礎

## 1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

## 2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 \_\_\_\_\_ 1 - 9 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 4 - 1 1 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 \_\_\_\_\_ 3, 1 3 - 1 6 \_\_\_\_\_ 項\*、0 2 . 1 1 . 2 0 0 5 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 \_\_\_\_\_ 1 - 9 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☒ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 1, 2, 1 2 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

## 第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 1 3 , 1 4 , 1 6

理由：

☐ この国際出願又は請求の範囲 \_\_\_\_\_ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☐ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 \_\_\_\_\_ の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 \_\_\_\_\_ が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

☒ 請求の範囲 1 3 , 1 4 , 1 6 について、国際調査報告が作成されていない。

☐ 入手可能な配列表が存在せず、有意義な見解を示すことができなかった。

出願人は所定の期間内に、

☐ 実施細則の附属書Cに定める基準を満たす紙形式の配列表を提出しなかったため、国際予備審査機関は、認められた形式及び方法で配列表を入手することができなかった。

☐ 実施細則の附属書Cに定める基準を満たす電子形式の配列表を提出しなかったため、国際予備審査機関は、認められた形式及び方法で配列表を入手することができなかった。

☐ PCT規則13の3.1(a)又は(b)及び13の3.2に基づく命令に応じた、要求された配列表の遅延提出手数料を支払わなかった。

☐ 入手可能な配列表に関連するテーブルが存在しないため、有意義な見解を示すことができなかった。すなわち、出願人が、所定の期間内に、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を満たす電子形式のテーブルを提出しなかったため、国際予備審査機関は、認められた形式及び方法でテーブルを入手することができなかった。

☐ スクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが電子形式のみで提出された場合において、当該テーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を満たしていない。

☐ 詳細については補充欄を参照すること。

第Ⅴ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性（N）	請求の範囲	3-11, 15	有
	請求の範囲		無
進歩性（IS）	請求の範囲	3-11, 15	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性（IA）	請求の範囲	3-11, 15	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明（PCT規則70.7）

文献1：JP 2003-67727 A（株式会社豊田中央研究所）2003.03.07，【0119】、  
【図23】（ファミリーなし）

請求の範囲3-11, 15に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

1. (削除)

2. (削除)

3. (補正後) 車両に搭載されその車両前方を撮影するカメラを備え、前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像が示す道路景観を解析する道路景観解析装置であって、

前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像を対角線で複数の領域に分割する画像分割手段と、

前記複数の領域各々の画像内容を個別に解析する解析手段と、を含み、

前記解析手段は、前記複数の領域のうちの下方向領域の画像について道路解析処理を行う道路解析手段と、前記複数の領域のうちの上方向領域各々の画像について風景解析処理を行う風景解析手段と、前記複数の領域のうちの下方向領域の画像について背景解析処理を行う背景解析手段と、を備えたことを特徴とする道路景観解析装置。

4. 前記道路解析手段は、前記下方向領域の画像に応じて道路の白線認識を行ってその近似直線を算出する手段と、前記近似直線の直線距離を計測する手段と、前記近似直線に応じて車線幅を計測する手段と、前記下方向領域の画像に応じて路面状況を認識する手段と、を含むことを特徴とする請求項3記載の道路景観解析装置。

5. 前記風景解析手段は、前記上方向領域各々の画像の緑色率及び青色率を検出して森林及び海の割合を推定する手段と、前記上方向領域各々の画像の色分布を検出する手段と、前記上方向領域各々の画像のフラクタル次元解析を行う手段と、を

含むことを特徴とする請求項 3 記載の道路景観解析装置。

6. 前記背景解析手段は、前記上方領域の画像の青色率を検出して青空の割合を推定する手段と、前記上方領域の画像の色分布を検出して背景主要物を推定する手段と、前記背景主要物までの距離を計測する手段と、を含むことを特徴とする請求項 3 記載の道路景観解析装置。

7. 前記解析手段は、前記道路解析処理の結果に応じて複数の道路特徴の指数を各々設定する手段と、前記左右領域各々について前記風景解析処理の結果に応じて複数の風景特徴の指数を各々設定する手段と、前記背景解析処理の結果に応じて複数の風景特徴の指数を各々設定する手段と、前記複数の道路特徴の指数の平均値を道路快適度として算出する手段と、前記左右領域各々について前記複数の風景特徴の指数の平均値を左右の風景快適度として算出する手段と、前記複数の背景特徴の指数の平均値を背景快適度として算出する手段と、前記道路快適度と前記左右の風景快適度と前記背景快適度との平均値を道路景観快適度として算出する手段と、を備えたことを特徴とする請求項 3 記載の道路景観解析装置。

8. 前記解析手段は、前記複数の道路特徴の指数のうちの最大値の道路特徴と、前記複数の風景特徴の指数のうちの最大値の風景特徴と、前記複数の背景特徴の指数のうちの最大値の背景特徴と、を含む文書データを作成する文書データ作成手段を有することを特徴とする請求項 7 記載の道路景観解析装置。

9. 前記複数の道路特徴は道路の直線度、路面の綺麗さ及び道路幅の広さであり、前記複数の風景特徴は森林及び海の割合、看板の少なさ並びに複雑度であり、前記複数の背景特徴は青空率、標識の少なさ及び開放度であることを特徴とする請求項 7 記載の道路景観解析装置。

10. 前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像中に障害物が存在するか否かを判別する手段と、前記車両前方の画像中に前記障害物が存在しない場合に前記画像分割手段及び前記解析手段を活性化させる手段とを更に備えたことを特徴とする請求項1記載の道路景観解析装置。

11. 前記障害物は車両であることを特徴とする請求項10記載の道路景観解析装置。

12. (削除)

13. (追加) 車両に搭載されその車両前方を撮影するカメラを備え、前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像が示す道路景観を解析する道路景観解析装置であって、

前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像を複数の領域に分割する画像分割手段と、

前記複数の領域各々の画像内容を個別に解析する解析手段と、を含み、

前記画像分割手段は、前記車両前方の画像について白線認識し、その白線認識による最外部の白線までを道路領域とすることを特徴とする道路景観解析装置。

14. (追加) 前記画像分割手段は、前記カメラによって撮影された前記車両前方の画像とその画像よりも時間的に前に撮影された前記車両前方の画像との変化量から移動距離を算出し、閾値を設けて風景領域と背景領域を領域分けすることを特徴とする請求項13記載の道路景観解析装置。

15. (追加) 車両前方を撮影して得られた前記車両前方の画像が示す道路景観を解析する道路景観解析方法であって、

前記車両前方の画像を対角線で複数の領域に分割する画像分割ステップと、

前記複数の領域各々の画像内容を個別に解析する解析ステップと、を含み、

前記解析ステップは、前記複数の領域のうちの下方領域の画像について道路解析処理を行う道路解析ステップと、前記複数の領域のうちの左右領域各々の画像について風景解析処理を行う風景解析ステップと、前記複数の領域のうちの上方領域の画像について背景解析処理を行う背景解析ステップと、を備えたことを特徴とする道路景観解析方法。

16. (追加) 車両前方を撮影して得られた前記車両前方の画像が示す道路景観を解析する道路景観解析方法であって、

前記車両前方の画像を対角線で複数の領域に分割する画像分割ステップと、

前記複数の領域各々の画像内容を個別に解析する解析ステップと、を含み、

前記画像分割ステップは、前記車両前方の画像について白線認識し、その白線認識による最外部の白線までを道路領域とすることを特徴とする道路景観解析方法。